

平成26年度研究成果報告書《平成25・26年度教育課程研究指定校事業》

| | | | | | |
|--------------------|---|----------------|-----|------------|---------|
| 都道府県・ 指定都市番号 | 63 | 都道府県・ 指定都市名 | 岡山市 | 研究課題番号・校種名 | 5（4）中学校 |
| | | | | 領域名 | E S D |
| 研究課題 | 新学習指導要領の実施を踏まえた、学校全体での教育課程の編成、指導方法等の工夫改善に関する実践研究 (4) E S Dを学校全体で体系的に推進するために、各教科等の連携により、持続可能な社会づくりに関わる課題を見だし、それらを解決するために必要な能力や態度を児童生徒に身に付けさせるための指導方法等に関する実践研究 | | | | |
| ふりがな 学校名（児童生徒数） | おかやまけんおかやましりつきょうやまちゅうがっこう 岡山県岡山市立京山中学校（821人） | | | | |
| 所在地（電話番号） | 岡山市北区津島京町1-7-1（086-254-2797） | | | | |
| 研究内容等掲載ウェブサイト URL | http://www.city-okayama.ed.jp/~kyoyamac/ | | | | |
| 研究のキーワード | 総合的な学習の時間、W型問題解決モデル、E S Dカレンダー、教科横断的な単元学習プログラム、評価規準表（グレード表） | | | | |
| 研究成果のポイント | 総合的な学習の時間の本校版学習指導要領解説の作成 「能力・態度」を踏まえたE S Dカレンダーの作成 W型問題解決モデルを取り入れた探究活動 E S Dの視点で拡張した教科横断的な単元学習プログラムの構築 地域との連携・提案・発信 | | | | |

1 研究主題等

(1) 研究主題

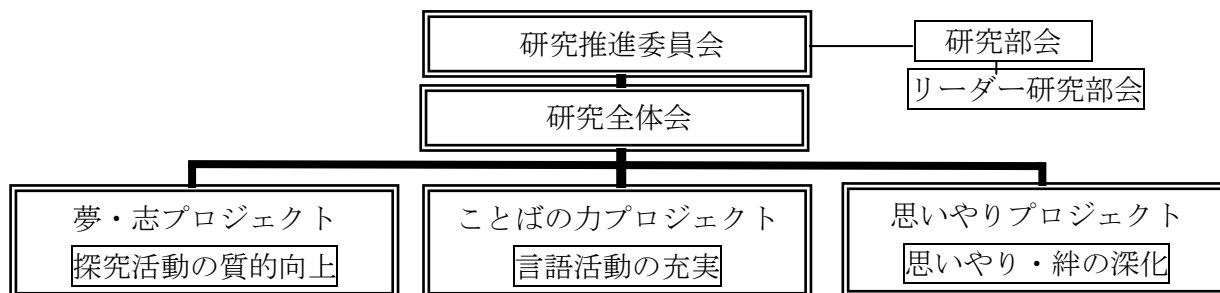
| |
|---|
| 地域に誇りを持ち、地球的視野で考え未来を創る生徒の育成 ～グローバルな視点を活かした授業・活動で育む思いやり・夢・志 共育～ |
|---|

(2) 研究主題設定の理由

本校では、平成24年度よりユネスコスクールに加盟し、グローバルなネットワークを活用しながら、他校や地域との連携を図り、学校間・生徒間で情報や体験を分かち合い、地球規模の諸問題に中学生として対処できる新しい教育内容や手法の開発につなげていきたいと考えている。そこで、グローバルな視点で、ローカルに活動することを一人一人が当事者意識をもって考えていくために、「グローバル」な視点を活かした授業・活動を通して、自然と人間の調和を多面的に考え、思いやり・夢・志を大切に、共に育ちあう学校づくりを推進している。

そこで、「環境」「平和」「人権・多文化共生」「キャリア教育」を軸に、「つながり」「関わり」をキーワードに、E S Dの視点に立った学習指導を進めていく。学習課題や学習内容を内容的・空間的・時間的につなげることで、学習者同士や学習者との世代、地域社会とをつなげることで、身に付けた能力・態度を具体的な行動に移し実践につなげることを目指す。こうした具体的な課題の発見・探究・解決・提案の過程で、生徒自らが持続可能な社会づくりへの価値観を身に付け、自らの意志決定を促し、行動を変革していくことができるよう取り組むことで、学校教育目標「自立と創造へ向かう生徒の育成ー挑戦・共生・豊かな心ー」の実現を図る。

(3) 研究体制



(4) 2年間の主な取組

| | |
|--------|---|
| 平成25年度 | <ul style="list-style-type: none"> 総合的な学習の時間の取組の精選、時系列に整理・検討 6つの「構成概念」と7つの「能力・態度」の組み込み 総合的な学習の時間と教科等を関連付けたE S Dカレンダーの作成 E S Dの視点で拡張した教科横断的な単元学習プログラムの構築 地域の方を講師とした京山学区フィールドワーク教員研修の実施 研究内容をリーフレットにまとめ、地域に発信 文部科学省での中間発表会において、研究成果発表 |
| 平成26年度 | <ul style="list-style-type: none"> 総合的な学習の時間の本校版学習指導要領解説の検証・改善・見直し 学年ごとに、付けたい力を明確にしたE S Dカレンダーの図式化 育てたい力を明示したE S Dカレンダーの検証・改善 W型問題解決モデルを踏まえた探究活動に取り組むカリキュラムの具体化と実践 単独教科や合同教科において、E S D的に拡張した単元学習プログラムを実践 総合的な学習の時間と教科の学年ごとの評価規準表（グレード表）の作成 県外のユネスコスクールとのテレビ会議等を活用した「子どもみらい会議」の実施 京山学区フィールドワーク教員研修の実施 研究成果をリーフレットやホームページ等で発信 文部科学省での最終報告会において、研究成果発表 |

2 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 研究内容

① E S Dの視点を踏まえた総合的な学習の時間の本校版学習指導要領解説の作成

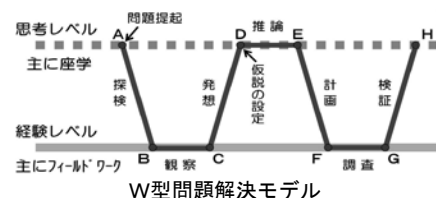
総合的な学習の時間で取り組んできた学習内容について3年間を見通して、E S Dの視点で整理を行い、重視する6つの「構成概念」と7つの「能力・態度」でまとめた。2年目は、本校版学習指導要領解説を基に改善・実践を行い、検討・修正をしていく。また、7つの「能力・態度」での評価規準表（グレード表）を、学年の発達段階に沿って作成する。こうして、総合的な学習の時間での学習内容と育てたい力を明確にした学習指導要領解説を作成する。

② 重視する「能力・態度」を踏まえたE S Dカレンダーの作成

総合的な学習の時間と教科等の関連をE S Dの視点で整理し、本学習で重視する「能力・態度」を踏まえたE S Dカレンダーを作成することで、指導方法や手立てを明確にする。

③ W型問題解決モデルを取り入れた探究活動の実践

課題を設定し、その課題の解決ために情報を収集し、整理・分析した結果を、まとめ・表現することで、新たな課題に出会う、再びその課題について探究していく、というように、このプロセスを繰り返しながら、より質の高い課題解決へと深めていく探究活動を実践することで、社会貢献・行動化へと結び付ける。



課題を設定し、その課題の解決ために情報を収集し、整理・分析した結果を、まとめ・表現することで、新たな課題に出会う、再びその課題について探究していく、というように、このプロセスを繰り返しながら、より質の高い課題解決へと深めていく探究活動を実践することで、社会貢献・行動化へと結び付ける。

④ E S Dの視点で拡張した教科横断的な単元学習プログラムの構築

単独教科や複数教科でE S Dの視点で拡張した単元学習プログラムを構築し、教科の授業改善に結び付ける。教科ごとに、6つの「構成概念」と7つの「能力・態度」での評価規準表（グレード表）を作成し、評価の観点との関連付けをすることで、指導と評価の一体化を推進する。

⑤ 特色を活かした地域連携や学校間交流

参画型の教員研修として地域の方を講師に地域フィールドワークを行い、地域の魅力を発見する。また、生徒が探究活動した提案を、総合文化発表会や京山公民館で地域に発信する。県外のユネスコスクールとの学校間交流などから、「共に生きる」について生徒の視野を広げる。

(2) 具体的な研究活動

① 総合的な学習の時間の学習内容を、重視する六つの「構成概念」と七つの「能力・態度」を踏まえ、3年間を見通した本校版学習指導要領解説・評価規準表(グレード表)を作成した。

【事例】第3学年の学習指導要領解説「環境学習」

【事例】総合的な学習の時間 評価規準表(グレード表)

5「環境学習」のねらい
 『環境学習 ～地球は一つ！水保から発信する世界につながる願い～』(第3学年)
 中学校3年間の総合的な学習の時間の最終課題として、環境について学び考える。2年生終業から、環境問題を考える学習をスタートさせる。地域の環境団体を招いて世界規模の環境問題についての講演を聴き、世界で起こっている環境問題について知り、身近なところで自分自身ができることを考えさせる。
 また修学旅行で訪れる水保と関連し、環境庁京都府水保の環境問題と向き合ってきた経緯や歴史などを学習する。3年次では、実際に水保を訪れ、水保での資料館見学や船尾先生水保病者さんとの交流などを経て、理解や学習を深めたり、水保市内でテーマ別のフィールドワークを行ったりする。学んだことをまとめ・整理していく中で自分の考えがどのように変化していったか、どのような行動ができるかといったところで考えさせる。

◆持続可能な社会づくりの構成概念から見た「環境や環境問題」
 I 多様性… 環境要因(大気、水、土など)の多様性、環境問題の多様性(温暖化、酸性雨、水質汚濁など)
 II 相互性… 環境問題と経済発展との関係
 III 有限性… 資源・エネルギーの有限性、汚染された自然の不可逆性
 IV 公平性… 環境汚染被害に被った人々の人権
 V 連携性… 環境問題解決に向けての多様な主体の協力、科学技術の連携
 VI 責任性… 好ましい環境を次世代に残していく責任

◆本学習で重視する能力・態度
 ① 批判的に考える力 <批判>… 他者の意見や情報を検閲し、理解して、よりよい解決策を考えることができる。
 ② 未来を予測して計画を立てる力 <未来>… 次世代を含むすべての人々に、より質の高い生活をもたらすことのできる開発や発展について考えることができる。
 ③ 多面的、総合的に考える力 <多面>… 環境問題が社会・経済面において、複雑に絡み合っていることが理解できる。
 ④ コミュニケーションを行う力 <伝達>… 環境問題について自分の考えをまとめ、他者の考えを尊重しながらコミュニケーションを図ることができる。
 ⑤ 他者と協力する態度 <協力>… 環境問題に取り組んだ事例に学ぶことで、他者と協力することの大切さを学ぶ。
 ⑥ つながりを尊重する態度 <関連>… 人間の営みと自然の共存という視点をもつ。
 ⑦ 自ら進んで参加する態度 <参加>… 広い視野で問題と向き合い、解決するための思考力・判断力を身につけようとしている。

◆指導上の留意事項(3つのつながり)
 ① 教材のつながり 世界規模の環境問題についての講演や、新聞記事等を通して、世界で起こっている環境問題について知り、世界がつながっていること、未来へつなげていくために注意されることの学習を時間的につながりながら、内容がどんどん広がっていることに注意させ、進めるようとする。
 ② 人のつながり 船尾先生水保病者さんとの交流を通して、環境問題と向き合ってきた経緯や歴史などを学習する。意見交換や地域へ出ての学習によって深めていく。
 ③ 能力・態度のつながり 地球規模や国規模で、環境についてまとめた考え・内容を、地域や学校に発信し、問題解決に向けて積極的に取り組んでいく。

| 能力・態度 | GRADE I | GRADE II | GRADE III | 評価規準 |
|-----------------------|---|---|--|----------------|
| ① 批判的に考える力 <批判> | インタビューやアンケートなどで情報を収集し、多様な方法で考えることができる。 | 様々な方向から客観的な情報を収集し、公平な判断ができる。 | 他者の意見や情報をよく検討して、よりよい解決策を考えることができる。 | 情報収集・活用能力 |
| ② 未来を予測して計画を立てる力 <未来> | 他者の意見を共有し、自分たちで未来を予想・予測・期することができる。 | 過去・現在からよりよい未来をつくるために、今自分たちができることを計画することができる。 | 京山地区の柱がたに、より質の高い生活をもたらす提案をすることができる。 | 問題解決能力 |
| ③ 多面的、総合的に考える力 <多面> | 地域の良さと課題に気づき、京山地区を多面的に見ようとする可以尝试。 | 関係者、出来事、社会情勢、自然などを理解し、多面的に考えることができる。 | 課題が、社会・経済各方面において、複雑に絡み合っていることを理解し、多面的・総合的に考えることができる。 | 対人関係能力 |
| ④ コミュニケーションを行う力 <伝達> | 地域のいろいろな人と出会って、積極的に自分の考えを伝えたり、話を聞いたりすることができる。 | 自分の考えをまとめ、他者の意見を取り入れながら、他者よりよく伝えられる方法で発信することができる。 | 他者の考えを尊重しながら自分の考えをまとめ、他者へつなげて発信することができる。 | 学習活動への関心・意欲・態度 |
| ⑤ 他者と協力する態度 <協力> | 班内で互いの意見を集約し、協力して取り組もうとしている。 | 地域や関係機関とのつながりを築き、協力して考えを進めようとしている。 | 自分の身近な問題について他者と協力して物事に取り組もうとしている。 | |
| ⑥ つながりを尊重する態度 <関連> | 地域のことを調べることで、地域とのつながりに気づいている。 | 地域の特徴を知り、地域で役に立つ活動を行おうとしている。 | 地域の課題を見つけ、その解決策について考え、解決に向けて発信しようとしている。 | |
| ⑦ 自ら進んで参加する態度 <参加> | 班内での自分の役割に責任を持ち、進んでグループ発表をしようとしている。 | まとめた内容に責任を持ち、それらを地域や地域等へ出て発表・発信しようとしている。 | 広い視野で私たちの身近な問題と向き合い、解決策を発信し、解決の活動に取り組もうとしている。 | |

② W型問題解決モデルを活用した探究活動の質の向上に取り組むとともに、総合的な学習の時間と教科等の関連を図式化し、育てたい力を明示したESDカレンダーを学年ごとに作成した。

【事例】第1学年ESDカレンダー

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|-----------|--------------------------|--------------------------------|--------------------------------|----|-------------------|--------------------------------|-----------------|------------------------------------|----------------------------------|----|--------------------------------|
| 国語 | | 『21世紀に生きる』を学ぶ『21世紀に生きる』を学ぶ | 『環境問題の歴史と未来』を学ぶ『環境問題の歴史と未来』を学ぶ | | | 『21世紀に生きる』を学ぶ『21世紀に生きる』を学ぶ | | 『21世紀に生きる』を学ぶ『21世紀に生きる』を学ぶ | | | 『21世紀に生きる』を学ぶ『21世紀に生きる』を学ぶ |
| 数学 | | | 『数学と環境』を学ぶ『数学と環境』を学ぶ | | | 『数学と環境』を学ぶ『数学と環境』を学ぶ | | 『数学と環境』を学ぶ『数学と環境』を学ぶ | | | 『数学と環境』を学ぶ『数学と環境』を学ぶ |
| 社会 | | 『環境問題の歴史と未来』を学ぶ『環境問題の歴史と未来』を学ぶ | 『環境問題の歴史と未来』を学ぶ『環境問題の歴史と未来』を学ぶ | | | 『環境問題の歴史と未来』を学ぶ『環境問題の歴史と未来』を学ぶ | | 『環境問題の歴史と未来』を学ぶ『環境問題の歴史と未来』を学ぶ | | | 『環境問題の歴史と未来』を学ぶ『環境問題の歴史と未来』を学ぶ |
| 理科 | 『理科の基礎』を学ぶ『理科の基礎』を学ぶ | 『理科の基礎』を学ぶ『理科の基礎』を学ぶ | 『理科の基礎』を学ぶ『理科の基礎』を学ぶ | | | 『理科の基礎』を学ぶ『理科の基礎』を学ぶ | | 『理科の基礎』を学ぶ『理科の基礎』を学ぶ | | | 『理科の基礎』を学ぶ『理科の基礎』を学ぶ |
| 英語 | | | 『英語の基礎』を学ぶ『英語の基礎』を学ぶ | | | 『英語の基礎』を学ぶ『英語の基礎』を学ぶ | | 『英語の基礎』を学ぶ『英語の基礎』を学ぶ | | | 『英語の基礎』を学ぶ『英語の基礎』を学ぶ |
| 総合的な学習の時間 | 『京山中の魅力探検～歴史に学び、未来へつなぐ～』 | | 『きみの手で創ろう！未来の京山地域』 | | 『究実！探究活動～先輩から学ぶ～』 | | 『戦争と平和～先人から学ぶ～』 | | 『戦争や原爆の歴史が教える平和な社会とは』 | | |
| 音楽 | | 『音楽の基礎』を学ぶ『音楽の基礎』を学ぶ | | | | 『音楽の基礎』を学ぶ『音楽の基礎』を学ぶ | | 『音楽の基礎』を学ぶ『音楽の基礎』を学ぶ | | | 『音楽の基礎』を学ぶ『音楽の基礎』を学ぶ |
| 美術 | | 『美術の基礎』を学ぶ『美術の基礎』を学ぶ | | | | 『美術の基礎』を学ぶ『美術の基礎』を学ぶ | | 『美術の基礎』を学ぶ『美術の基礎』を学ぶ | | | 『美術の基礎』を学ぶ『美術の基礎』を学ぶ |
| 保健体育 | | | 『保健体育の基礎』を学ぶ『保健体育の基礎』を学ぶ | | | 『保健体育の基礎』を学ぶ『保健体育の基礎』を学ぶ | | 『保健体育の基礎』を学ぶ『保健体育の基礎』を学ぶ | | | 『保健体育の基礎』を学ぶ『保健体育の基礎』を学ぶ |
| 技術・家庭 | | | 『技術・家庭の基礎』を学ぶ『技術・家庭の基礎』を学ぶ | | | 『技術・家庭の基礎』を学ぶ『技術・家庭の基礎』を学ぶ | | 『技術・家庭の基礎』を学ぶ『技術・家庭の基礎』を学ぶ | | | 『技術・家庭の基礎』を学ぶ『技術・家庭の基礎』を学ぶ |
| 道徳 | 4-(7) 徳心 | 4-(8) 徳心 | | | | 4-(4) 徳心 | | 1-(4) 徳心 4-(13) 徳心 2-(12) 徳心 | 1-(4) 徳心 1-(5) 徳心 4-(5) 徳心 | | 3-(11) 徳心 |
| 学活 | | | | | | | | 『学活の基礎』を学ぶ『学活の基礎』を学ぶ | | | 『学活の基礎』を学ぶ『学活の基礎』を学ぶ |

- ③ 総合的な学習の時間の第1学年(50時間)第2・3学年(70時間)において、「環境学習」「平和学習」「人権・国際理解学習」「キャリア学習」「個人テーマ追究」を柱とした学習活動を作成し、W型問題解決モデルを取り入れた探究活動を行った。
- ④ 単独教科や複数教科で、E S Dの視点を拡張した単元学習プログラムを11事例作成することで、言語活動の充実や思考力・判断力・表現力の育成を図った。また、教科ごとに学習評価の観点と結び付けた評価規準表(グレード表)を作成した。

総合的な学習の時間の学習内容

- ★ 『京山中の魅力探検～歴史を学び、未来へつなぐ～』
- ★ 『きみの手で創ろう!未来の京山地域』
- ★ 『充実!探究活動～先輩から学ぶ～』
- ★ 『戦争や原爆の歴史が教える平和な社会とは』
- ★ 『京山ハローワーク～地域の先輩から学ぶ～』
- ★★ 『心でつなげる平和のバトン～一人一人の思い、大きな力へ』
- ★★ 『キャリアスタート!「夢・志」発見ウイーク』
- ★★ 『岡山・多摩・気仙沼子ども未来会議』
- ★★ 『架橋!探究活動～地域へ提案・発信～』
- ★★ 『心の病気を学ぶ授業～地域病院との連携～』
- ★★ 『世界の文化のよとこ発信!京山から世界へ』
- ★★★ 『環境学習～地球まっつ!水臭から発信する世界こつながる願いへ』
- ★★★ 『世界へ発信!探究活動～あなたの夢の種をみんな育てよう』
- ★★★ 『いのちを育て授業～赤ちゃんからの贈り物～』
- ★★★ 『未来の自分へ!～自分の道を切り拓こう～』

教科横断的な単元学習プログラム

- ★ 『水墨画等の伝統文化を体験し、日本のよさを伝えよう』《音・美・社》
- ★ 『日本の伝統「武道」の魅力の世界へ発信!』《体・英・道》
- ★ 『アフリカの魅力をPRしよう!』《社・英》
- ★★ 『地球まっつ!世界の環境問題を考えよう』《英・理・道》
- ★★ 『気温と湿度をグラフに表し、天気の変化と関連付けよう』《理・技》
- ★★ 『名画を鑑賞し、その「かっこよさ」に気づこう』《国・美》
- ★★★ 『小さな「地球のすばらしさ」を感じ取ろう』《英・理》
- ★★★ 『世界の食糧問題を解決するための行動指針を提案しよう』《美・家・道・英》
- ★★★ 『物体の運動を目に見える形で表現しよう』《数・理》
- ★★★ 『世界の全ての子どもに教育を!』《英・社・道・学》
- ★★★ 『食生活が健康に与える影響について考えよう』《体・家》

- ⑤ 地域の「人・もの・こと」とのつながり・関わりを大切に活動に取り組み、総合文化発表会(SKF)において、ステージ発表やワークショップ等を活用し、個人で探究活動したことを地域に提案・協議した。学校間連携では、東京都多摩市、宮城県気仙沼市の中学校とTV会議等を通して「子ども未来会議」を開き、「共に生きる」「防災」について、さまざまな視点から意見交換し、生徒の見方や考え方を深めた。

3 研究の成果と課題

(1) 成果

- E S Dの視点で育みたい能力・態度を明確にしたE S Dカレンダーの図式化や評価規準表(グレード表)により、指導と評価の一体化を図り、3年間の見通しが明確になった。
- 複数教科で学習内容を検討する中で授業スキルを高めることができ、教科を超えた学習連携や同僚性が深まるとともに、教員の発想力や教材研究力の向上につながった。
- W型問題解決モデルを意識した探究活動の質の向上を図ることで、生徒の思考力・判断力・表現力の育成につながった。
- 生徒の課題意識が高まり、社会貢献や地域ボランティアへの意欲が増した。

(2) 課題

- 生徒の学びの質や変容を内発的に評価する方法など、E S Dの成果をモニタリング評価するような、評価の方法の工夫・改善をしていく必要がある。
- 中学校区での小中連携をさらに深めていく。小学校の学習内容と付けたい力を明確にして、小中学校9年間を見通したカリキュラムを精査し、検証・改善していく。

(3) 指定期間終了後の取組

- 総合的な学習の時間とそれに関連した教科等について、重視する能力・態度を踏まえたE S Dカレンダーに基付いた実践を通して、PDCAサイクルをスパイラルにまわしていく。
- 生徒や教員の主体的な発想やアイデアを活かし、独創的な授業づくり、教科横断的で探究的な教育課程づくりをさらに進める。